

Vol. 24 H29.9.20

土砂災害について学ぶ「砂防・防災勉強会」を開催

TATEYAMA SABO



立山砂防事務所では「富山県環境保険衛生連合会」の方を対象とした、砂防や防災に関する勉強会を開催しました。

調査課の高橋課長が講師を務め、立山砂防の歴史や事業の紹介、常願寺川の過去の災害、白岩砂防堰堤と本宮砂防堰堤、世界や日本各地で頻発する地震・豪雨等による土砂災害の発生状況及び被害状況、全国の地方整備局等から被災地に派遣される緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）、砂防堰堤の役割や効果、そして防災情報や防災訓練に関する説明について熱心に聴講されました。

開催日：平成29年9月20日（水）
時間：10:00～11:00
場所：立山砂防事務所 第2会議室
参加者：富山県環境保険衛生連合会（18名）



平成29年7月26日
九州北部豪雨による大規模な斜面崩壊
(大分県日田市小野地区)



勉強会の様子(事務所 会議室)



挨拶：三屋 部長



講師：高橋 調査課長

勉強会後の質問・感想では

- ・カルデラ内の土砂崩れは今もあるのか
- ・手取川では上流の崩壊により常に川が濁っているが、常願寺川はどうなのか
- ・立山カルデラ内の土砂は止める事ができるのか
- ・土砂は半永久的に出続けるのではないのか
- ・砂防堰堤を造る場所が限られてきているのではないのか
- ・土砂の流出を防止するためには、大きなダムを造る必要があるのではないのか
- ・山の斜面には、杉よりブナ・ナラ等の根の深い木を植えるべきなど、活発な質疑・応答が交わされました。